

【物語文】＝登場人物の心情＋出来事

※登場人物 3～4 名（大きく○で囲む） ※しっかり「あらすじ」を読み込む

【目標：15 分】

①登場人物を知る

まずは文章中に出てくる登場人物について把握しましょう。

- ・登場人物の関係性
- ・文章中の時間の流れをきちんと把握する。（登場人物の心情が変化）
- ・人物像をとらえる
- ・人物の行動や心情から、その人物の考え方や性格をとらえる。

◇場面設定

・過去・現在・未来の「いつ」の話なのか。

→最初が現在の話で、過去の回想があって最後に現在に戻るなどの時系列

◇舞台は「どこ」なのか。 →学校、病院、図書館、などの具体的な場所

◇「だれ」が関係している話なのか→家族、友人、恋人、職場の人などの人物の関係

②心情やセリフ、動きに着目する 物語を読み進める際に一番重要な点です。

（例）

- ・「君じゃ無理だよ」と言われ、しずくは爪が食い込むまで手を握りしめた。→悔しさが伝わる
- ・それを聞いた瞬間、しずくの体が強く硬直した→強く動揺している様子、とても驚いている様子
- ・「僕になんて…」と強くため息を吐いた→自信のなさが伝わる
- ・「先生の対応に、祐輔はぐっと唇をかみしめた。」→「祐輔」の心情はおそらく先生の対応に納得がいかず、不満や怒りを抑え込んでいると考えられ、動作から読み取ることが出来ます。

「登場人物の表情」

（例）「祐輔の顔が徐々に青ざめていった。」→祐輔は徐々に不安や恐怖心にかはれている心情を読み取ることが出来ます。

「登場人物の言葉や声の調子」

（例）『「こんなことになるなら、行かなければ良かった」と祐輔は弱々しく言った。』と言った表現から「祐輔」は後悔しているということが分かります。

◆人物の心情・心情の変化をとらえる

- ・人物の心情を直接表わしている言葉に注目する。
- ・人物の様子や行動・言葉などに注目する。
- ・人物の心情が映し出された情景をとらえる。
- ・場面の変化や時間の経過によって、人物の心情がどう変わっていったかをとらえる。

※ただし、「泣く」「ため息をつく」などは、さまざまな心情から引き起こされます。こういう場合は、「できごと」と照らし合わせながら「くやしいから泣く」のか「うれしいから泣く」のかを判断します。

③情景描写にも着目する 心象風景（心＝風景） ※必ず意味がある

情景描写とは登場人物が眺めている景色や光景、また登場人物の周りに広がる自然描写です。

情景には人物の心情が表れていることもある

(例)

・その日彼が見上げた空は、雲一つない青空だった。→主人公の気持ちが晴々としている事が伝わる。

・「祐輔の頭上には、雲一つない夕焼け空が広がっていた。」と言った表現から、「祐輔」は清々しい気持ちであるということを読み取ることができます。

◎例えば「天気」を例にすると、

目の前には雲一つない青空が広がっていた。→ポジティブ、ハッピーな展開を暗示している。

空にはどんよりした重たい雲がのしかかっていた。→ネガティブ、良くない雰囲気を予感させる

このように、直接的な心情を表す表現以外からも登場人物の心情を表すことができ、問題として出題されやすいです。

④主題を読み取る

「小説の主題」とは、作者が一番言いたいことです。

主題を読み取る上でポイントになるのが、「あらすじをつかむ」、「物語の山場をつかむ」という2点

- ・話の中心をとらえる
- ・話の展開をおさえ、どういうことを中心に描いた物語なのかをとらえる。
- ・人物の最も強く感じたことをとらえる
- ・人物の言葉や行動に注目して、人物が最も強く感じたことをとらえる。

⑤解き方

(1).何を聞かれているのか正確に把握する

例 1)このときのタカシさんの気持ち書きなさい。

「～気持ち」で終わる

(プラスの気持ちの解答例)

～と、うれしく思う気持ち。

～という前向きにがんばろうという気持ち。

(マイナスの気持ちの解答例)

～と、悲しく思う気持ち。

～と、情けなく思う気持ち。

例 2)このときのタカシさんが行動した理由を答えなさい。

理由を聞かれているときは、語尾は必ず「～から」で終わる必要があります。

例 3)どんな様子が答えなさい。という問題があります。

この問題のときは、語尾を「～様子」で終わる必要があります。

人の「感情」と「その原因」

人の「行動」と「その理由」

※小説文の記述は「気持ち」と「理由」セット

- ・「心情」を示す言葉に線を引く
- ・「変化」を示す言葉に線を引く
- ・「設定」を示す言葉に線を引く

(2)人物の気持ちは以下の4つの形で表されることが多いです。

- ①気持ちを表す言葉(太郎はうれしさがこみ上げてきた。→うれしさ)
- ②人物の行動や様子(花子は肩を落とした。→がっかりする気持ち)
- ③人物の発言や心の中の言葉(私は「本当かな…」と思った。→疑い)
- ④比喩や情景描写(日光で木々が輝いている→希望)

「物語文は感情移入をして読む」のは間違いです。自分の感情を重ねない。

問題を解く上で必要なことは、登場人物はどのような心情なのかを「文章中から読み取る」ことです

問題から先に読んでみましょう！

(3)分割法 **必ず2つに絞る**

文章の内容と合致していれば○ 文章の内容とズレていた時は× 少し微妙で判断にまよう時は△
※上記のような感じでつけていきます。その上で、×がないものが正解に近いと考えて、絞り込んでいきます。二択になればあとは△の数で比べるか、再度読み込んでいけば正解にたどり着いていくことが増えていきます。

【まとめ】

- ・あらすじをしっかりと理解
- ・登場人物
- ・気持ち(感情)を表す「表情・様子・セリフ」「情景」・・・ しっかりラインを引く(マークする)
※行動＝理由がある 「感情」の直前の文をみれば、その原因がわかる

登場人物が何らかの「アクション＝行動」を起こしたとき、必ずその理由を
考えて文章を読む → ※ここが問題(設問)になる

【再度チェック】

- ・主人公が話した言葉
- ・主人公の気持ちを表した文
- ・主人公の行動や表情
- ・主人公に起こった出来事
- ・情景が主人公の心情になっている文

【補足】「気持ちを表す慣用句」 ※たくさん覚えましょう！

間接的に「気持ち」を表す言葉というのは、例えば…

間接的に気持ちを表す言葉

眉をひそめた ⇒ 不愉快

途方に暮れた ⇒ 呆然

顔を赤らめた ⇒ 恥

肩を落とした ⇒ 落胆

気がとがめる ⇒ やましく思う

胸がすく ⇒ せいせいする

胸がおどる ⇒ 期待でわくわくする

※「気」「胸」「目」「息」などを辞書で引くと慣用句が載っているので、心情を表すものを拾い出して単語カードを作るのもよいでしょう。